



登録稲門会 検索

現在、約70の海外稲門会が世界各地で活動しています。
海外に滞在する際は、現地の稲門会を検索して参加してみましょう。
※一部、活動休止中の稲門会もありますことを、ご了承ください。

会長メッセージ

早稲田魂。この言葉にどんなイメージを持つだろうか。パンカラ、変人、都の西北といった様々な意見があるだろうが、私は早稲田魂を「早稲田の民が持つ独特なオーラ」と捉えている。

7年前、稲門会設立を目指して会員集めに奔走した時に感じたデンマークのマイナーっぷりが今となっては信じられない。近年、早稲田大学とデンマークの大学の交換留学生をはじめ、現地企業との共同プロジェクトに参加する社会人や、夢を追い求める猛者たちが次々とデンマー

クを訪れ、稲門会にも参加している。
さまざまな人々と出会い、交流を深めることに感じることもある。彼らは皆、確実に何らかの「面白さ」を持っている。知性、好奇心、行動力、発想力といった目に見えなくもそこには確実に存在するオーラが、彼ら稲門の民を包み込んでいる。そして、そのオーラは磁石のように仲間を引き寄せる。こうして、稲門生は早稲田魂というオーラを通じて人々を惹きつけ、また自らも引き寄せられていくのだろう。

渡邊英理(2003年文学)

会員からのメッセージ

早稲田に学び、デンマークというユニークな国に住んだ、という共通項だけで、年齢、性別、キャリア、国籍を問わず、初めて会った人とも30分も経たずに親友のように打ち解けて、延々と語り続けられる、不思議と居心地の良いコミュニティが、デンマーク稲門会です。何かと無聊をかちがちな駐在員生活の中で、いつも活力と勇気をもたらしていました。

個人主義ながら連帯感を重んじるデンマークの文化と、独立不羈、自由で熱い早稲田の風土はどこかあい通じるものがあるからかもしれません。あまりの心地よさに、帰国後も集まって語り合う東京支部まで結成されたことも、その証左と言えるでしょうか。

山田正人(1987年政経)

デンマークに移住してから「早稲田に行っただけ良かった」と心から思うようになりました。

どこか似た者同士という仲間意識があるのでしよう。異国の地で、稲門会メンバーは世代も性別も超えてすぐに打ち解けます。生涯の仲間に出会ってくれたデンマーク稲門会に

乾杯！
針貝有佳(2005年文学、08年社研修)

私がデンマーク稲門会に入会したのは2019年、同じオフィスの会社に勤務し、一足先に入会した山田さんのお誘いを受けてでした。メンバーが多く集まるコペンハーゲン方面へ行くには片道3時間、それでも都合がつけば稲門会イベントに参加しました。それだけメンバーが多様性に富み、刺激を受けたからだと思います。デンマーク稲門会も、「小さいながらも多様性に富む」デンマークの縮図という訳でしょうか。あるいはワセダの縮図？まさに「ヒュグゲ(Hygge)」な会です。

石光桂太(1994年理工)

デンマーク稲門会は、デンマークの文化に影響されてか、人間関係がフラットで会全体が温かいです。

デンマークの生活面に関しての情報共有をいだけるのは勿論、初対面同士でも、ちょっとした笑話や時には深い話までできる場は心の支えになりました。

学生である私にも親身になってくださる方がかりで、研究が思うようにならないときも、定期的にデンマーク稲門会の皆さまとお会いできることが日々の原動力になりました！

内藤 識(2020年法学、22年法研修)

2016年に発足したデンマーク稲門会は、2023年4月現在30名を超える会員を有しています。創設から比較的年数の浅い海外稲門会ですが、小規模ながらも非常に団結力の強い会で、デンマークを離れた後も会員登録維持



2022年夏の懇親会。
コペンハーゲンの運河沿いレストランにて

デンマーク稲門会について

を希望される方が多くいます。それを受け、昨年、デンマーク稲門会の下部組織である東京支部(デンマーク稲門会に所属したことがある方が対象の非登録稲門会です)が発足いたしました。デンマークでご縁のあった稲門同胞たちが、年齢や職業を問わず、東京でまた集い、楽しむ姿は、幹事として大変に感慨深いです。

普段は1、2ヶ月に1度程度、懇親会を行っております。また、デンマークで最高の季節である6月には、毎年、家族やパートナーの同伴も可能な総会BBQを開催しています。

「平等」を重んじるデンマークらしく、年功序列や村度のない、フラットで気さくな会です。ヨーロッパの他の海外稲門会との交流も積極的に行っています。デンマークにお越しの際はどうぞお気軽にご連絡ください。

足立奈穂(2002年政経)

デンマークの魅力

デンマークに住んで26年になりました。デンマークにおいて驚き、かつ魅力として感じる一つが、政党間のやり取りや政策の決定についてです。

多くの民主主義国家において、与党と野党が激しくぶつかり合う光景が多く見られます。そして、両者の対立が先鋭化し、相手側をあたかも敵のように考え、憎悪をむき出しにしたり、誹謗中傷に明け暮れるということも見られます。

しかし、このような光景がデンマークでは多くは見られません。重要な政策決定には全ての政党が参加し、徹底的に議論しますが、そこには、他党を尊敬し、国民重視という姿勢が強く見られるように思います。

ここに民主主義の進むべき方向を見、デンマークが多くの民主主義国家の半歩先を進んでいるのかなと感じています。

五十嵐信博(1974年文学)

(上)首都コペンハーゲンの観光地ニューハウン
(下)ニューハウンのカラフルな建物とボート



自転車インフラが整備されている「世界一の自転車都市」

